

トルコ土木学会 (Turkish Chamber of Civil Engineer) 訪問

国際委員会委員 正会員 アイダン・オメール (東海大学)

1. はじめに

2007年1月28日より1週間にわたって、濱田政則会長とトルコの土木学会 (TCCE) を公式訪問した。TCCE と土木学会は2001年に協定学会の契約を交わしたが、具体的に両学会が共同で活動を展開するようなことはなかった。昨年の全国大会のラウンドテーブルミーティングにTCCEがDr.Hasgür (イスタンブール工科大学教授) を派遣し、両学会の今後の協力関係のあり方が話し合われたことが契機となって、今回の会長による公式訪問が実現した。2月2日にアンカラのTCCEの本部を訪れ、土木を取り巻く全般的な課題に関する意見交換、土木技術者の資格制度や教育制度、昨年設立されたWCCE (World Council of Civil Engineers) への対応、さらには今後の両学会の具体的な協力のあり方について討議を行った。

トルコ側からTCCE会長のTaner Yüzgeç氏、事務局長G.Özdemir女史ほか、8名、日本の土木学会側からは濱田会長とアイダンが出席した。



写真-1 TCCE本部における会談

2. TCCE本部との討議事項

TCCE本部での会合では、まず、土木技術者の資格制度のあり方に関する話題が取り上げられた。JSCE側からは日本の土木技術者の資格全般に関する説明と、JSCEが行っている資格制度と現状および社会的定着を図るための今後の計画について説明を行った。TCCEからは、中近東工科大学の土木工学科教授でProfessional Engineerの資格制度に関する特別委員会委員長のTankut氏から、TCCEが

進めようとしている資格制度の計画についての説明があった。資格制度のあり方については今後両学会で機会を得て協議を続けることを申し合わせた。

次に、JSCEとTCCEの協力に関する具体的な方策が議題となった。TCCEはWCCE設立の中心的なメンバー学会であるが、WCCEが現在計画している津波に関する国際シンポジウムへの積極的参加を要請され、JSCEとしても可能な限り専門家を派遣することを約束した。WCCE設立に関してはJSCEに対して再々にわたって設立のメンバー機関になるように要請がきているが、JSCEとしてはWFEO (World Federation of Engineering Organizations) およびACCECでの活動に主眼を置くという立場より現在のところ、設立メンバーには加わっていない。

JSCEとTCCEとの将来の協力活動の1つとして、大都市圏の地震災害軽減に関するシンポジウムの開催をJSCEとして提案した。最近の地震学の知見によれば、東京およびイスタンブールは近い将来大地震に襲われ、ともに甚大な被害が発生すると予測されている。両国の地震防災の研究者と実務者が一同に会して、災害軽減の方策を話し合うというのが提案の主旨であり、この提案に関しては引き続き、財政的な問題や開催時期について検討することとした。

最後に、最近のトルコ国内の日本の建設業による建設工事、特にボスフォラス海峡トンネル建設工事のことが話題になった。工事の概要や進捗状況がTCCEなどに属するトルコの土木技術者に十分に発信されておらず、現場見学会や説明会などを定期的に開催してほしいとの要望があり、この件についてはJSCEとしても建設工事を行っている企業などに要請する旨回答した。

このほか、トルコと日本の歴史的な友好関係として、トルコ海軍の戦艦エルトゥールの和歌山沖沈没に際しての救助活動、イラク紛争開始時のトルコ航空による邦人救出および地震防災分野の半世紀にわたる友好関係が話題となった。今後もJSCEと

TCCE が主要な窓口機関となって両国の建設分野の協力関係を一層発展させることを確認した。

3. TCCE イスタンブール支部およびデニズリ支部訪問

アンカラの本部の訪問のほかに、TCCE のイスタンブール支部およびデニズリ支部を訪問した。イスタンブール支部は支部会員約 1 万 8,000 人で、TCCE のなかで最大の支部である。イスタンブールでは支部長をはじめとする多くの会員の要請もあって、現在施工中のボスフォラス海峡トンネルの現場見学が大成建設のご厚意によって実現した。イスタンブール支部からはイスタンブール工科大学の Karadogan 学長など 10 人余りの土木技術者が参画し、大成建設側からの工事の概要の説明および沈埋函製作ヤードの見学を行った。トルコ側参加者の多くが初めての現場見学ということもあり、多くの熱心な質問が出された。沈埋函の製作およびシールド部の工事は順調に進んでいるとのことであった。海峡部における沈埋函の沈設を 3 月上旬に予定しているとのことである。日本とトルコのみならず世界が注目する工事であり、成功を祈りたい。

デニズリはトルコ中西部の人口 50 万人の地方産業都市であるが、世界遺産の石灰岩台地、バムカッレの所在地として有名で日本人観光客にも人気のある場所である。デニズリ支部以外にも県知事



写真-2
ボスボラストンネルの工事事務所での説明会（左より Hasgür 教授、濱田会長、Karadogan 学長）

写真-3
デニズリでニュース番組に出演



写真-4 イスタンブール工科大学のホールでの講演

および市長を表敬訪問し、この地域で 2000 年から JSCE メンバーにより行われてきている地震防災や地すべり問題に関する共同研究や今後の進め方について意見交換を行った。このことは現地のテレビでも報道された。

4. 濱田会長による講演

濱田会長によるトルコ土木学会への公式訪問ということもあって、TCCE 側から記念講演の要請があり、中近東工科大学やイスタンブール工科大学など現地の大学の協力により、「Roles of Civil Engineers for Natural Disaster Mitigation and Environment Protection」と題した講演がアンカラ、イスタンブールおよびデニズリの 3 個所で行われた。世界の自然災害の状況と自然環境の変化、将来の自然災害への対応と環境回復の方策およびそのために土木技術が果たすべき役割が説明され、国際的な協力の必要性が強調された。

5. JSCE 海外支部トルコ分会の設立に向けて

トルコでは、前述のボスボラストンネルの建設工事をはじめとして、多くの日本の土木学会会員が建設業務に従事している。これらの業務を遂行するうえで、現地の技術者および研究者との交流は業務を円滑に遂行するうえでもきわめて重要と考える。また、日本とトルコは歴史的にも長い間友好関係を維持しており、特に地震防災分野での協力は長い歴史を有している。トルコの土木技術者と現地の土木学会会員の友好と協力関係を一層深めるため、JSCE の海外支部トルコ分会の設立の準備を進めている。

現在 8 人のトルコ人土木技術者（イスタンブール工科大学および中近東工科大学などの教員が中心）が土木学会に入会申請をしている。これに現地在住の日本人土木技術者 5 名が発起人となり、分会設立の申請が近々される予定であり、理事会での審議を経て 5 月には正式に発足する予定となっている。

トルコ分会が設立されれば韓国、台湾、英国およびモンゴルに加えて 5 つ目の海外分会となるが、問題はこれらの海外分会が具体的に本部と連携してどのような活動を展開するかということである。分会の活動を活発にするためには、ニュースレターや英文ホームページの充実など、本部からの十分な情報発信が不可欠であることはいうまでもない。25 の海外協定学協会との具体的な共同活動の展開も含めて国際部門での検討が必要と考える。